

労働関連統計を読む

——なぜ賃金は上がらないか

奥田 久美氏

9月28日は、会員の奥田久美さん（元労働省労働経済課長）から「労働（関連）統計を読む」と題した話を聞いた。奥田さんは在任中に、自身のキャリアで最も長い期間（6年間）にわたって、労働経済統計分析に携わっており、そうした経験も踏まえながら、実証的で分かりやすい話が聞けた。

レクチャーは、「就業構造基本統計調査」、「労働力調査」など総務省統計局所管の調査、「毎月勤労統計調査」・「雇用動向調査」など厚労省所管の調査などに加え、「法人企業統計調査」（財務省）や「国民経済計算」（内閣府）など実に19にも及ぶ各統計の解説と分析に加え、関連するテーマに関する他の研究者の主張や論文等も紹介しつつ、明快に解説、主張を加えた。また、各統計の時系列的分析に力点をおきながら、かつ各統計を相互に関連付けながら検証するという手法によって、労働者のおかれた今日的な状況を総合的に分析した。



奥田さんからは、「有効求人倍率が久方ぶりに高い数値（7月が1・52倍）を示すなど、景気は拡大局面にある一方で、賃金や雇用者所得は低下し続け、格差が拡大している。人手不足なのに何故賃金が上がらないのか」、「雇用形態の多様化や雇用流動化によって日本的雇用慣行が大きく変容しつつある」、「こうした中で、どのようにして付加価値を増やし配分の是正を正すのか」など極めて重要なテーマが投げかけられた。（加藤昇）